

議事録

会議の名称	令和3年度第3回西東京市総合教育会議
開催日時	令和4年2月3日（木） 午後1時30分から午後3時10分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎3階 庁議室
出席者	池澤市長、木村教育長、米森教育長職務代理者、後藤教育委員会委員、山田教育委員会委員、服部教育委員会委員、今井教育委員会委員、古林美香氏（西東京子ども放課後カフェ代表） （事務局） 保谷企画部長、栗田企画部参与兼企画政策課長、小倉企画政策課企画政策担当主任、利根川企画政策課企画政策担当主任、五十嵐健康福祉部参与兼健康課長、丸畑健康課発達支援係長、飯島教育部長、清水教育部特命担当部長、掛谷教育企画課長、佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、山縣教育指導課長、荒木統括指導主事、高田公民館長、徳山図書館長 （傍聴人） 4人
議 題	1 事業報告及び討議 （1）教育委員会のICTを活用した取組について （2）こどもの発達センターひいらぎの児童発達支援センター化 2 懇談 「学校を巻き込んだ地域活動のひろがり」 3 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市GIGAスクール構想の進捗状況について 資料2 オンラインを取り入れた新たな学びの実践について 資料3 図書館事業におけるICTの活用について 資料4 （仮称）西東京市児童発達支援センター整備基本計画〈概要版〉
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○市長： ただいまから、令和3年度第3回西東京市総合教育会議を開会します。 「事業報告及び討議」、西東京子ども放課後カフェ代表をお招きした「懇談」、最後に「その他」でございます。 どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>○市長： 本日の会議は、西東京市総合教育会議会議規則に基づき公開します。傍聴は、西東京市総合教育会議傍聴要領に基づき10席までの傍聴を認めます。会議の議事録は、発言者の発言内容ごとの要点記録とします。御異議ございませんか。</p> <p>（異議なし）</p> <p>○市長： 傍聴の申出があったため、傍聴希望者の入場を許可します。</p>	

○市長：

本日の総合教育会議は、今年度第3回目の会議です。

前回の会議では「令和3年度の教育に関する重点施策」を協議の上、決定していただきました。今回の会議では、重点施策のうちのひとつ、「学校を核とした地域づくり」の関連として、西東京市子ども放課後カフェの古林代表をお招きし、学校をフィールドに地域活動を行い、子どもたちと接するうえで感じていることなどをお伺いします。

議題1 事業報告及び討議

○市長：

議題2「事業報告及び討議」を取り上げます。

「(1) 教育委員会のICTを活用した取組について」、教育指導課、公民館、図書館から説明をお願いします。

(事務局説明)

○市長：

3つの部署から説明を受けました。新型コロナウイルス感染症の状況が大変厳しい中でも、感染防止に努めながら、学校教育、また生涯教育の場を継続して提供していくために、ICTを活用した工夫が求められています。この件について、御意見又は御質問はありますか。

○山田教育委員会委員：

デジタル教科書については、従来の紙の教科書とのベストミックスを狙っていくとのことですが、現在の紙の教科書と出版社は同一なのでしょうか。

○山縣教育指導課長：

出版社は同一です。

○山田教育委員会委員：

理科や美術、音楽などの教科については、デジタル教科書にしたほうが教育効果が高いように感じますが、これらの科目へのデジタル教科書の導入はないのでしょうか。

○荒木統括指導主事：

数学、算数、英語については、小中一貫教育の中で、一貫したカリキュラムを導入しているという背景があり、先行して導入しました。理科や社会については動画で様子を観察出来たり、音楽や美術については作品の前後のシーンを見ることができたり、家庭科においては、ミシンの使い方を動画で繰り返し確認することができたりするなど、効果は大変期待できると考えます。これらの教科についても、導入を進めていきたいと考えています。

○山田教育委員会委員：

デジタルの良いところを上手に利用していただきたいと思います。

○後藤教育委員会委員：

子どもGIGAスクール委員会の設置について、非常に貴重な取組だと思います。

子どもたちが自分たちで決めたルールを自分たちで守る、あるいは、使い方を含めたメッセージ動画の配信をする、などの取組が期待できますが、どのような活用を想定しているか伺います。

また、図書館、公民館でのオンラインでの取組についても非常に大切に感じます。オンラインでの講座終了後、講座に参加した方から、どのような形で感想を聴取しているのか伺います。

○荒木統括指導主事：

子どもGIGAスクール委員会は、1月に第1回目の会議を実施しました。その会議では、中学生が各学校でどんなことに困っているかについてアンケートを実施し、その結果を基に、自分たちが挙げた課題を解消するためには、どのようなルールやマナーが必要かということについて話し合っています。3月にはそのルールやマナーを形にして、各学校へ発信していきたいと考えています。これらについては、中学校区ごとに小学生に伝えていくなどの活動も検討しているほか、市民の皆様にも発信していく機会を設けたいと考えています。

○高田公民館長：

講座終了後にアンケート用紙を送付いただいたり、講座の中でグループワークを実施したりするなど、様々な形での意見集約を行っています。

○服部教育委員会委員：

デジタル教科書については、教科書採択の対象となることはあるのでしょうか。また、先進事例として杉並区や千代田区を視察されたとのことですが、それらの自治体で課題としていることが分かれば教えていただきたいです。

公民館、図書館の取組については、講座に参加できなかった方へ後日動画で配信するなどといった取組があるのかどうか教えてください。

○山縣教育指導課長：

紙の教科書を採択した後、デジタル教科書の導入という流れになるため、現在のところ、教科書採択については紙媒体のみとなっています。

今後、デジタル教科書の導入の際には、教育委員会定例会の場等で御覧いただき、評価等していただきたいと思います。

先進自治体の課題については、教師間の力量差の埋め方や、学校ごとの情報連携の方法、また、限られた機能の有効な活用方法等の課題があったと伺いました。

GIGAスクールの推進に当たっては、スタートダッシュを掲げ、トライ&エラーで取り組んでいただきたいと学校へ周知をしてきました。これは、教える側の温度差を限りなく少なくしていくことと、教職員間で互いに補完できるような組織の活性化を図ることに繋がったと捉えています。

○高田公民館長：

令和2年度には、非常に人気のある講座である「人形劇フェスタ」において、参加できなかった方へ動画配信を行いました。YouTubeを使った配信など、様々な可能性について今後検討していきたいと考えています。

○米森教育長職務代理者：

公民館の講座においては、どのような形でオンライン化への環境整備や支援を行っているのでしょうか。職員の御苦勞を含めてお伺いします。

○高田公民館長：

講師の方には公民館に来館いただき、公民館職員と共に配信をする形をメインとしています。接続の補助やトラブルへの対応など、参加者へのフォローが一番大切だと考えています。オンラインへの対応に長けた職員の育成が今後の課題だと感じています。

○今井教育委員会委員：

デジタル教科書の導入は、重い教科書を持ち運ぶ子どもへの身体的な負担の軽減にも効果があるのではないのでしょうか。一方で、子どもの視力への影響にも配慮が必要に感じます。

子どもの学びが豊かになることは間違いないと思いますが、導入にはアナログとデジタルとのミックスが大切になると考えます。

公民館、図書館事業についても同様に取組を推進していただきたいと思います。

○市長：

これまでも私自身、子どもたちと直接オンラインで話をする機会がありましたが、今後も実際に機器を手にする子どもたちの意見を聞きながら取組を推進してまいりますので、委員の皆様からも御意見等いただきたいと思ひます。

○市長：

続いて、「(2) こどもの発達支援センターひいらぎの児童発達支援センター化」について、健康課から説明をお願いします。

(事務局説明)

○服部教育委員会委員：

乳幼児の段階では、親にとっても、発達状況の判断は難しいと思ひます。他のお子さんと遊んでいる様子を見て、「何か変だな」と感じたときに、ひいらぎに相談をするケースは非常に多いと思ひます。

職員は多忙のイメージがありますが、人員の手当てについての計画はなにかおありでしょうか。また、児童発達支援センターは、対象は6年生までと考えてよろしいのでしょうか。

最後に、学校における発達支援との連携についてもお伺いします。

○五十嵐健康福祉部参与兼健康課長：

対象の年齢は0歳から18歳までとしています。ただし、発達支援については早期発見、早期療育が非常に大事でありますので、まずは未就学児の部分をしっかり担っていきます。

就学後については関係部署や関係機関との連携の中でのサポートを進めていきます。令和2年度から各機関との連携会議「ステップアップミーティング」を開催し、体制の構築を始めています。人員体制については、これらの連携の中で対応していきたいと考えています。

この「ステップアップミーティング」には、教育部の各部署にも参加いただき、保護者の声等を共有することで、学校現場との連携を図っています。

○今井教育委員会委員：

オンライン相談の方法はどのようなもののでしょうか。

○五十嵐健康福祉部参与兼健康課長：

具体的なツールについては、今後検討していきます。療育に関する相談は非常に専門的な部分もあります。オンラインでの相談は、専門相談につなげるための入口として、有効的に活用することを想定しています。

○今井教育委員会委員：

保護者としても、オンラインの活用は相談への第一歩を踏み出しやすくなるものだと感じます。

○市長：

支援を必要とされている方を誰一人取り残さないことが基本姿勢であります。しっかりと対応をしていきたいと思えます。

議題2 懇談

○市長：

西東京市子ども放課後カフェ代表の古林様から「学校を巻き込んだ地域活動のひろがり」をテーマにお話しいたします。その後、意見交換を行いたいと思えます。

(古林氏スライドに沿って説明)

○今井教育委員会委員：

飲み物等の費用はどこから出ているのでしょうか。また、放課後カフェの代表が集まり意見交換する場はあるのでしょうか。

○古林西東京市子ども放課後カフェ代表：

規模にもよりますが、1回あたり3～5千円はどうしてもかかってしまいます。NPO等企画提案事業からの補助もありますが、主に寄附や、フードドライブによるもので賄っています。

放課後カフェを実施している各中学校の代表者による連絡会の設置があり、それが西東京子ども放課後カフェという組織です。意見交換だけでなく、外部の講師を招いた講演会等も行っています。

○今井教育委員会委員：

コロナ禍でなかなか実施は難しいとは思いますが、様々な形で再開いただきたいと思えます。

○服部教育委員会委員：

中学生の居場所の確保について、子どもたちに高く評価されていると感じました。

一方で、場所の設定ですが、調理室や理科室は良いと思えますが、図書室を使う場合、ひとりで静かに読書をしたいという子どもたちの意見も考慮いただきたいと思えます。

また、様々な感受性を持つ子どもたちに対する声掛けの難しさがあります。地域の大人が参加することについて、研修の実施や、人選の工夫など、どのようになさっていますか。

○古林西東京市子ども放課後カフェ代表：

場所については希望を言う以前に、学校に場所を貸していただくことがまず一番難しいです。学校の協力があってこそであり、場所についてはこちらにはあまり選択肢がありません。開催頻度もそれほど多くはないので、図書室を利用させていただくこともあります。

大人のスタッフについては、子どもとどのように接したらいいか、講師を招いて勉強会を実施しています。田無第一中学校では独自のルールを作り、必ず毎回開始前に全員で確認しています。

○米森教育長職務代理：

等身大で子どもと大人とが接し、いろいろな気づきがある場として貴重に感じます。学校の先生との距離感も非常に大事に思いますが、協力姿勢はいかがでしょうか。

○古林西東京市子ども放課後カフェ代表：

校長先生が何度か替われながら運営してきていますが、カフェの意義を都度あるごとに先生方に伝えることで、少しずつ理解が図られ、協力的になっていると感じます。学校の先生にとっては、教室では見えない子どもたちの表情や特技など、新たな一面が見られることもあり、信頼関係が築けているのではないのでしょうか。

○後藤教育委員会委員：

中学生の仲間づくりの貴重な場になっていると感じます。同時に、学校の先生方がスタッフ等、生徒たち以外と関わるができる場でもあると思います。

子どもたちと企画して取り組んだことなどあれば御紹介いただけますか。

○古林西東京市子ども放課後カフェ代表：

子どもたちに、読みたい漫画や、聞きたい音楽等のアンケートを行い、運営に生かしています。子どもたちとともに企画するような、そういった試みも行ってみたいと思います。

○市長：

子どもたちの気持ちを汲み取って、寄り添いながら子どもと同じ目線で接しているその姿がよくわかりました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後、是非このような機会をまた、設定いただきたいと思います。

議題3 その他

○栗田企画政策課長：

教育に関する重点施策についてはこの間御議論いただきありがとうございました。来年度の重点施策については、来年度の最初の会議でお示ししたいと思いますが、今年度の引き続きの内容と考えています。

○市長：

事務局よりその他の連絡事項を求めます。

(事務局説明：会議資料と会議録の公表、次回開催予定について)

○市長：

最後に、本日の内容を踏まえ、教育長から意見を求めます。

○教育長：

「子どもと真ん中のまちづくり」では、教育委員会と市長部局との連携が一層強まってくると感じています。学校の教員はもちろんですが、管理職にも積極的にこのような施策に参加いただき、議論をしていきたいと考えています。

私自身も放課後カフェに参加したことがあります。まず感じることは、子どもも大人も笑顔にあふれているということです。大人の方も楽しんで参加しています。カフェには、特別なルールもなく、自然な関係が生まれています。中学校では部活を除くと学年ごとの交流はあまりありませんが、カフェにはそれがあります。非常に良い空間であると感じています。

学校との連携も含め、教育委員会として応援していきたいと考えております。本日はありがとうございました。

○市長：

令和3年度は総合教育会議の運営方法を変え、現場の声を多く聞くことを目的に、地域で様々な活動をされている方をお招きし意見交換をさせていただき、今後の市の施策に生かしていこうと取り組んできました。引き続き来年度についても様々な方の声をいただきながら市政運営に生かしていきたいと思っております。本日はありがとうございました。

以上で、令和3年度第3回西東京市総合教育会議を閉会します。

<閉会>